

磐田市体育協会 山岳部

(磐田山の会)

部 員 数 28名

代 表 者 池田 修造

創 立 年 昭和39年3月

山岳部創設と市民登山ハイキング

昭和30年代は、山岳小説「氷壁」の影響もあり登山ブームであった。大きなリュック、重い登山靴、山の麓から頂上をめざす、スポーツ登山の全盛期であった。大学の山岳部の合宿風景はよく報道され、健康な体力作りが注目された時期である。

山岳部の母体の「磐田山の会」は来年、創立50周年を迎えることになった。昭和35年の設立当時は、新進気鋭揃いであったが、今や50年経過し、それぞれが中高年登山ブームの真っ只中の一端を担っているといえよう。

山岳部設立以来、市民登山ハイキング大会を42回にわたり開催し、北遠の山、奥大井、安倍奥、富士山とその周辺、愛鷹連峰、毛無山塊、箱根、伊豆、奥三河、岐阜、中央アルプス方面等、バラエティーに富んだコースを選択し、現在まで延べ3,000人余の参加を得て盛況裡に推移してきた。

市民登山ハイキング大会、登山教室年表

(第15回まで省略)

第16回〈昭和55年5月25日〉	
愛鷹連峰「越前岳」1,505m	参加62名
第17回〈昭和56年5月3日〉	
春野町「岩岳山」1,369m	参加52名
第18回〈昭和57年5月23日〉	
天竜川奥「常光寺山」1,439m	参加48名
第19回〈昭和58年11月6日〉	
天竜川奥「檀山」1,258m	参加40名
第20回〈昭和59年10月14日〉	
天竜川奥「白倉山」1,027m	参加54名
第21回〈昭和60年10月20日〉	
箱根「金時山」1,213m	参加62名
第22回〈昭和61年11月9日〉	
大井川奥「無双連山」「高山」1,094m	参加41名
第23回〈昭和62年11月8日〉	
水窪町「青崩峠」1,082m	参加54名
第24回〈昭和63年10月23日〉	
安倍川奥「八紘嶺」1,917m	参加57名
第25回〈平成元年11月19日〉	
大井川奥「蕎麦粒山」1,627m	参加81名
第26回〈平成2年11月11日〉	
愛知県東栄町「明神山」1,016m	参加74名

第27回〈平成3年11月10日〉	
愛鷹連峰「越前岳」1,505m	参加90名
第28回〈平成4年11月8日〉	
水窪町「熊伏山」1,653m	参加84名
第29回〈平成5年11月14日〉 健脚向	
身延町「毛無山」1,945m	参加77名
第30回〈平成6年11月6日〉	
水窪町「麻布山」1,685m	参加89名
第31回〈平成7年11月5日〉	
水窪「奈良代山とシャウゾ山」1,835m	参加95名
● 登山教室〈平成8年5月19日〉	
奥三河「岩古谷山」799m	参加36名
第32回〈平成8年11月10日〉 健脚向6時間	
「天子ヶ岳」「長者ヶ岳」1,336m	参加82名
● 登山教室〈平成9年4月24日〉	
愛知県「日本ヶ塚山」1,107m	参加56名
第33回〈平成9年11月9日〉	
奥三河「宇連山」930m	参加91名
● 登山教室〈平成10年5月10日〉	
精進湖西「三方分山」1,422m	参加50名
第34回〈平成10年11月8日〉	
大井川奥「高塚山」1,621m	参加105名
● 登山教室〈平成11年5月16日〉 5時間	
三河奥「明神山」1,016m	参加49名
第35回〈平成11年11月7日〉	
山梨県「黒岳」1,792m	参加78名
第36回〈平成12年10月22日〉 4時間30分	
山梨県「竜ヶ岳」1,485m	参加94名
第37回〈平成13年11月11日〉	
山梨県「三国山」1,320m	参加73名
第38回〈平成14年11月10日〉	
山梨県「石割山」1,413m	参加82名
第39回〈平成15年11月9日〉	
安倍川奥「青笹山」1,550m	参加87名
第40回〈平成16年11月7日〉	
天城「伊豆中央山稜」1,034m	参加79名
第41回〈平成17年11月6日〉	
安倍川奥「山伏」2,014m	参加59名
第42回〈平成18年10月29日〉	
駒ヶ根市「戸倉山」1,681m	参加53名、駒ヶ根市 72名参加
● 登山教室〈平成20年4月27日〉	

「入手山」1,212m、「岩岳山」1,369m 参加12名
● 登山教室〈平成20年11月9日〉
岐阜県「位山」1,529m 参加23名

駒ヶ根市との登山、交流

“しっぺい”太郎伝説からの友好が深められる中、昭和39年7月「駒ヶ岳」へ市民登山ハイキング大会を実施した。市役所を訪問、歓迎、激励の挨拶を受け伊勢滝登山口にむかった。当日は低気圧の煽りで雨天登山となった。山小屋到着前の30分は天候が急変し霧と激しい風雨で困難を極め、疲労で立往生する市民参加者の手を引き、背負った。小屋の鐘の音が救いの声に聞こえ、駆け込んだ。翌日頂上まであと25分の山小屋で天候の回復を待ったが、断念し下山する。「引き返す勇気を持て」とよく言われるがその時は、全員の安全が第一。偵察隊が先発し、沢の増水を避け安全な下山道を確保、誘導にも細心の注意を払い、無事下山し事無きを得た。

昭和42年1月12日に両市から友好宣言がされて以来、駒ヶ根市体育協会から登山大会への招請があり毎年数名の部員が参加している。平成7年駒ヶ根市民登山大会で「八ヶ岳・赤岳」へ会員・市民16名が参加し熱烈な歓迎を受けた。平成10年「空木岳」駒峰ヒュッテの再建完成時には、友好の鐘を贈り、アルピニスト達への警鐘となり、鳴り響いている。平成18年初めての試みとして、駒ヶ根市「戸倉山」に両市民登山大会を10月29日の同一日に設定し、両市から125名の参加があった。山頂の交流の場で市体協より特別参加の杉山会長から挨拶と磐田市からのメッセージを伝えた。今後も登山を通じ友好を深めていきたい。

駒ヶ根への登山年表（市民登山大会）

第5回〈平成4年9月5日～6日〉
南アルプス「塩見岳」3,052m 部員参加3名
第6回〈平成5年8月21日～22日〉
南アルプス「甲斐駒ヶ岳」2,967m 部員参加3名
第7回〈平成6年8月27日～28日〉
南アルプス「北岳」3,193m 部員参加5名
第8回〈平成7年9月2日～3日〉
八ヶ岳「赤岳」2,899m 部員と市民参加16名
第9回〈平成8年8月24日～25日〉
中央アルプス「木曾駒ヶ岳」2,956m 部員参加7名
第10回〈平成9年8月23日～24日〉
中央アルプス「空木岳」2,864m 部員参加10名
第11回〈平成10年8月22日～23日〉
中央アルプス「木曾駒ヶ岳」2,956m 部員参加8名

第12回〈平成11年8月21日～22日〉
中央アルプス「空木岳」2,864m 部員参加1名

駒峰ヒュッテ 小屋番応援

●〈平成11年7月18日～23日〉 部員1名
●〈平成12年7月22日～27日〉 部員2名
●〈平成13年7月22日～26日〉 部員1名
●〈平成14年7月19日～24日〉 部員1名
●〈平成15年7月25日～30日〉 部員2名
●〈平成16年7月23日～27日〉 部員1名

第19回駒ヶ根市民登山大会「木曾駒ヶ岳」2,956m
〈平成19年8月25日～26日〉 部員3名

第20回駒ヶ根市民登山大会
〈平成20年8月23日～24日〉
「唐松岳」2,696m、「五竜岳」2,841m 部員5名

山岳部の現況

中高年主体の部員となったが、毎月第2木曜日の定例会、月1回の定例山行、四季の山行等、年間のスケジュールで積極的な活動に終始している。

見付たのしい文化展では、毎年山岳写真展を開催し、山岳紹介など啓蒙に努めている。また、最近の大きな遭難事故は、悪天候での強行が大きな原因で、年々増加する遭難者のうち、60歳以上が半数を占める。「山の高齢化」はこれからも進むだろう。疲労の回復には年齢の影響もあり、経験の過信も仇となる。近年、難易度の高い山を軽装で、短期間で踏破する登山ツアーが多い。他人任せの山行となり、急変する山の自然との対決は、あくまでも個人である。問題視されている現況に、山岳部として、部外講師に、外科医、歯科医、テーピング会社の職員等を招き、山の基礎知識と、健康、体力維持、応急処置、救急法、天気図、ザイルワーク、装備、登山届、山岳保険加入等を、定例会、実施訓練、登山教室等で研鑽し、事故をおこさない楽しい登山に努めている。

－文責・青野晴男－

